

オーストラリア ウェスタン・シドニー大学 [2023年9月～2024年9月分]

経営学部4年 三反田 照

こんにちは、経営学部4年の三反田照です。私は、2023年9月から2024年の9月までの1年間オーストラリアの Western Sydney University に語学留学をしていました。これから、この1年間で、私が感じた日本とオーストラリアの違いをいくつかのカテゴリーに分けてお話しできたらと思います。



[授業]

初めに、カレッジの授業形式についてお話をします。日本の大学の授業形式は、皆さんが知っているように講義形式が主流で、学生は、講義を聞きながらノートを取り、教授が一方的に知識を伝えるスタイルが一般的なイメージですが、オーストラリアでは、学生が中心となって授業を行うことが多かったです。例えば、講義の大半が、ディスカッションやプレゼンテーション、グループワークなど、学生が積極的に参加をする形式が多い印象でした。そのため、生徒一人一人が自分の意見をもって、グループ内で自分の意見を共有すると同時に、他の人の意見を聞くことで、問題に対する見方、見え方の幅が広がったと感じる機会が多くありました。また、課題は日本よりも多く、survey report や research essay など自分で調査や研究などを行い、課題を通じて、学びを深める“自主学習”が主流でした。これらの課題を通して、日本の講義



形式よりも自分で課題研究をするオーストラリアのやり方が自分には向いている勉強法であると実感しました。なぜなら、調査や参考文献を探さないといけないという厳しい状況に身を置くことで、自分が理解していることに気づくことができるのと同じく、もっと深いところまで調べてみたいという興味が湧いたからです。

[日常生活]

次に、オーストラリアの日常生活の中にも日本とは多くの違いがありました。まず、私が驚いたことが、オーストラリアの“多文化社会”です。日本は均質的な社会であり、伝統的な文化が強く根付いていますが、オーストラリアは多文化社会であり、移民を多く受け入れていることから、様々な文化が共存し、他者の文化を尊重する風潮がありました。そのため、食事もBBQや多国籍料理が一般的です。日本でいう寿司のようなオーストラリア特有の料理というものを見かけることはありませんでした。オーストラリアの食文化は、イギリス植民地時代の影響を受けつつ、第二次世界大戦後の移民政策により、イタリア、ギリシャ、中国、ベトナム、タイなど様々な国の料理が融合しています。この多様性が、オーストラリアの食文化を豊かにしています。代表的なものは、ミートパイやフィッシュ・アンド・チップスなど他の国から影響を受けているものが多くありました。また街のレストランも日本食レストランから全世界の食に触れることができるくらい様々な国のレストランがありました。何度か日本食レストランに行きましたが、日本食のクオリティは高く、新鮮で丁寧な盛り付けがされており、どこの国にも負けない非常に高い水準であると実感しました。

また、オーストラリアでは、エレベーターの中でたまたまあつた見知らぬ人にもフレンドリーに接することが一般的です。バス停やカフェで気軽に会話を初めてそこから連絡先を交換して、違う日に遊びに行ったりすることもありました。礼儀も重視されますが、形式張った敬語やお辞儀などはあまり使われず、フレンドリーでカジュアルな挨拶が多いです。そのため、日本の文化とは違い初対面の人に対しての固い社交的な挨拶は少なく、私自身はもともとオープンな性格でしたが、日本にいた時よりさらに社交的な性格になったように思います。



[課外活動]

私は、オーストラリアでアルバイト探しにも挑戦しました。今、オーストラリアには、様々な国から出稼ぎに来る人々が多くいるため、仕事を見つけることはとても難しいと実感しました。私は、オーストラリアで運よく3つのアルバイトを経験することができましたが、最初のアルバイトを見つけるのに1か月半ほど時間がかかりました。1つ目は、給料

が高かったため飲食店で働きましたが、夜遅くに家に帰ることでホストマザーに迷惑をかけることから2週間程度で辞めました。次はローカルのカフェで働きました。そこは、BONDI BEACH にあり、朝の6時から昼の14時までで、週末営業をしていました。オーストラリアの多くのお店は、お昼過ぎには閉まるため、従業員のプライベートが大切にされていました。そこからアルバイト先のみんなで近くのビーチに行くなど、ローカルのカフェで働くことができたことはよい経験になりました。私が、アルバイトを通して驚いたことは、アルバイト、チーフマネージャーなど役職に関係なく、自分の意見を上司に伝えることができることです。働きやすい職場環境で、給料面も日本と大きな差があることを実感しました。また、職種もよりますが、リモートワークが強く浸透していました。給料が日本よりも高く、働きやすい職場環境づくりの整備が整っており、オーストラリアの職文化はとても魅力的でした。6か月以上のビザがないと雇ってくれる場所はないですが、そもそもアメリカや他の国は、学生ビザではアルバイトができないので、その面でもアルバイトが経験できるオーストラリア留学は魅力的で、日本との働き方の違いを知る、非常に有意義な時間となりました。

[最後に]

私が留学を迷っている人や興味がある人に伝えたいことは、留学をしたいからと言って、誰しもが簡単にできるものではないと思いますが、就職してからでは留学に挑戦することはさらに難しく、学生時代に海外留学をすることで、視野が広がり、就職活動の幅も広がるため、大学生である今留学をするメリットが多々あると思います。また、大学時代の留学は英語を学ぶことの大切さ体感し、グローバル化が進む中で、日本で重宝される人材となれる可能性があるかと信じています。そのため、少しでも気になる方がいれば国際課に足を運んで説明を聞いてみることをお勧めします。

